第１回・第２回　新たな大阪農政検討部会における主なご意見について

資料１

（①は第１回、②は第2回のご意見）

**１．成長と持続**

①トップ層の農家を伸ばしていく議論が多かったが、普通の農家や自給的農家にボトムアップを促す意識転換が大切。

①全ての農家を強い経営体に置き換えていくのは厳しい。家族経営をどうとらえるか。

①農家からすると、遠い話に感じる。農家を引っ張り上げるような取り組みが必要。

②都市農業の持っている公益性や機能性など、農業に問われている価値や意義について、農家自身の理解がまだ進んでいないことが一番の課題。

②農家が目の前の仕事に追われすぎて、経営に意識を持っていけないのが問題。経営者が余力を持てる体制づくりがボトムアップにつながる。

**２．食と農**

①消費や需要から農業を見る視点が必要。健康、フードマイレージ、食育等でどういうシナリオが描けるのか考えるべき。

①食の都を楽しもうという大きな視点から農業に何ができるか考えると、消費者を巻き込みやすい。

SNSなどで第三者が発信する広告塔の存在が必要。

①幅広い観点で大阪農業をいかに消費者に知っていただくかが大事。南河内や堺市に比べ、大阪市以北は農業になじみが薄く、どのように知っていただくか考えてほしい。

②地産地消が、生鮮品を消費者が手にとる前提で書かれており、食と農とが切り離されているのでは。料理の段階で地産地消であることの見える化も必要。飲食店でフードマイレージを表示する取り組みへの支援などもいいのでは。

②栄養素、食味、機能性の表示は大事だが、大産地が全力で取り組んでおり、大阪に競争力があるのか。消費者と話して感じるのは、食べ方の提案が大事。新しい食文化を発信し、消費につなげる流れが近道であり面白いのでは。

**３．マッチング**

①中間支援やマッチングは大きな要素。消費者と生産者をどうマッチングするのか、生産者同士を地域の中でどうマッチングするか。生産者は一人勝ちでなく、地域・全体で発展していく、というような意識醸成を図るべき。

**４．高収益型農業**

①高収益型農業を目指すにあたりスマート農業の考え方は抜きに出来ない。モザイク化、小規模化という大阪農業の実態に合ったスマート農業のあり方を検討していくべき。

①一定以上の収益向上には雇用が必要、雇用すれば経営者の意識になる効果もある。平均年収以上を目指す方へは行政が雇用への意識を促すべき。一千万円以上なら雇用は必須。

②高収益型農業とは利益率が高い、規模が大きいなど、経営体によって色々なやり方がある。どういったやり方が合うのか検討することが大切。

②高収益なぶどうや大粒のぶどうをつくる若手が多いが、高収益ではないワイン用ブドウやデラウェアも必要。販売戦略として安定して需要があるものを作り続ける考え方も組み込んでほしい。

**５．物流**

①物流の問題は大きい。府が物流を流す動きをしてもらいたい。

①より効率的な物流方法で大阪農業を活性化していくべき。

**６．環境貢献**

②大阪市内から泉州の直売所に買いに来る車のCO2排出量も多いのでは。体験でなく新鮮さだけを求めているお客には、市内で大阪産(もん)が買えるところを増やすのはCO2削減に有効では。

②フードマイレージ削減は大きな価値創造でもある。アメリカでは農業工場を消費地の横で生産することからフードマイレージの抑制から再評価している。環境と価値創造がまたがった視点を持ってほしい。

②ソーラーシェアリングは、農業で発電しているプラスのイメージ作りもでき、有効では。

**７．体験・交流**

②貸農園や体験農園は大切なポイントであり、今後はＪＡの関わり方が大切。直売所のついでに体験農園を利用するニーズはあるので、ＪＡ直売所に農園を整備すれば、直売所がコミュニティ拠点になり、農家の意識改革にも繋がるのでは。

②府が持つ文化園や農業公園の拡充も入れてはどうか。

②大阪府下での農村移住はあり得る。千早赤阪村や能勢町の空き家を使い、都会に居住しながら農村生活を楽しむといった展開ができないか。

②体験や環境の価値創造を求める消費者から、担い手に回ってくれる人も出てくる道筋になればよい。

②地域協働で本業外が手伝うことが当たり前の世界を目指している。

**８．都市農業振興基本法**

①都市の中で多面的な機能を発揮している大阪農業をどう消費者に知ってもらうかが大切。

②都市農業振興基本法で、農業政策と都市政策を一体的に進めていくべきとされたが、実態はそのようになっていない。農のある都市づくりを都市政策として位置づけることが必要。

**９．フードロス**

②フードロスの観点も大切。地産地消でフードロスが解決できると思う。

②生食のB品を加工用に買い取るマッチングを府が行い助かっており、この取り組みが広がるとよい。

**10．３つの視点**

①各委員やゲストスピーカーからは成長と持続、環境貢献、価値創造の３つの視点が重なる中心部分の話をもらった。分離して考えることはできないので、それぞれが重なった部分、または３つが重なった部分はどのような農業なのか、という視点が抜けないように今後議論していきたい。

②「３つの視点」の重なり合う部分を、既存の施策や新たな施策、人材育成で進めていくのが実効性を持たせる上で重要。具体的な施策と目標設定をもって、どう管理するのか示してほしい。